会　議　記　録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和５年度第１回高松市公文書等管理審議会
開催日時	令和５年７月１２日(水)　午前９時５６分～午前１０時４４分　閉会
開催場所	高松市公文書館　会議室
議　　題	議事（１）会長及び職務代理者の選任について （２）令和４年度事業報告について （３）令和５年度事業計画について （４）その他
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	
出席委員	岸野委員、嶋田委員、藤本委員、松繁委員、宮川委員、吉田委員
傍 聴 者	１人　　（定員　５人）
担当課及び連絡先	総務局総務課公文書館 ８７４－４１４７

会議の経過及び結果

１　開会

２　議事

（１）会長及び職務代理者の選任について

事務局から会長の選任について意見を求めたところ、藤本委員を推挙する意見が出され、全員一致で了承された。会長の職務を代行する委員については、会長が吉田委員を指名した。

（２）令和４年度事業報告について

（３）令和５年度事業計画について

公文書館の概要・業務、令和４年度事業報告及び令和５年度事業計画等について、事務局から説明した。

【主な質疑・意見等】

（委員）

一般利用をされる方はどういった内容の資料を利用しているのか。

（事務局）

直近では、高松市の旧図を調査するための資料や、旧塩江町の合併についての会議録、大学生が博士号取得に際して収集する資料などの利用があった。また、収蔵品情報システムに登載されている文書目録を確認した方から、昭和時代の旧合併町の資料を閲覧したいとの問い合わせがあった。

（委員）

新型コロナウイルス感染症の影響があった令和２年度や３年度において、来館者数が大きく減少していないが、何か要因はあるか。

（事務局）

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発令された際は、高松市公文書館を閉館していたため、来館者は減少となった。しかしながら、一般市民には高松市公文書館の認知度が低く、新型コロナウイルス感染症に関わりなく、元来、来館者が少ないことも起因してか、緊急事態宣言下でなくても、新型コロナウイルス感染症による影響は少なく、来館者数が大きく減少するなどの影響を受けなかったと推察する。

（委員）

香川県立文書館では、インターネット上に収蔵文書の目録を公開している影響からか、大学生や教授を始めとして、全国からの利用請求が増加している。高松市でもインターネット上で文書目録を公開してはどうか。

（事務局）

高松市では収蔵品情報システムを利用しており、既にインターネット上で簿冊名や件名、文書主管課名等、文書目録を公開している。

（委員）

公文書のうち、どのような文書を歴史公文書として保管又は廃棄の対象としているのか。

（事務局）

高松市では、保存の終期が満了した文書を対象に文書整理を行っており、その際、２７項目からなる「高松市歴史公文書等選別基準」により、歴史公文書を選別、保管しているが、これ以外で保存の終期の延長も必要なく、選別基準に該当しなかった文書については廃棄処分としている。

（委員）

歴史公文書について、データベース化が完了した紙媒体の文書は廃棄しているのか。

（事務局）

高松市では、文書管理システムにより文書の起案を行うが、起案文書の全てが電子データにより作成されているものもあれば、電子データと紙媒体を併用して起案を行っているものもある。歴史公文書として選別決定した文書のうち、全てが電子データで作成されている文書の場合は、それら全てのデータを収蔵品情報システムに登載することができるが、電子データと紙媒体による併用文書により作成された文書の場合は、紙媒体の文書の全てをＰＤＦ化する等の電子化を行う人員及び経費が不足していることから、全て電子データとして登録することが難しいため、紙媒体の文書は現物保管している。廃棄が決定した文書については、公文書館から文書主管課に廃棄決定の連絡を行い、文書主管課により、紙媒体の文書は溶解処理等により廃棄を行う。廃棄文書のデータについては、文書整理終了後、文書管理システムから削除している。

（委員）

今年度の親子体験教室は、予定より期間を１週間延長して開催するとのことだが、新型コロナウイルス感染症の影響が小さくなったことが要因か。

（事務局）

今年度の親子体験教室は、午前と午後の２部構成になっており、午前はミステリーツアーと題して公文書館の書庫等を探検し、午後は公文書館の仕事を体験してもらう内容となっている。今年度の申し込みが増えたのは、新型コロナウイルス感染症の影響が小さくなったことも要因の一つであると考えるが、広報高松に、ＱＲコードとともに親子体験教室の情報を掲載できたことも、要因であると考える。また、公文書館は、所在地である国分寺町民にも認知されていない状況であることから、国分寺北部小学校及び国分寺南部小学校の３、４年生全員にチラシを配布したことに加えて、国分寺北部コミュニティ協議会及び国分寺南部コミュニティ協議会に対してもＰＲを行うことで、まずは地元の方々に認知していただくことに注力した。その結果、反響が大きく、当初予定していた各回３組程度の定員を５組まで増やして対応していたものの、開催期間中の各回とも全て定員に達したため、リクエストの多いミステリーツアーを１週間延長して開催することとした。

（委員）

ＰＲが成功したことにより、親子体験教室の応募者が大幅に増加したということか。

（事務局）

お見込みのとおりである。加えて、これまでも毎年親子体験教室を開催してきたことで、口コミによる効果が表れてきたと思慮する。

（委員）

高松市公文書館の展示や親子体験教室等の事業は、いつも子ども向けにした優しいイベントであると感じる。今後の参考にする。

（４）その他

今後の審議会の開催予定について事務局から説明。

３　閉会